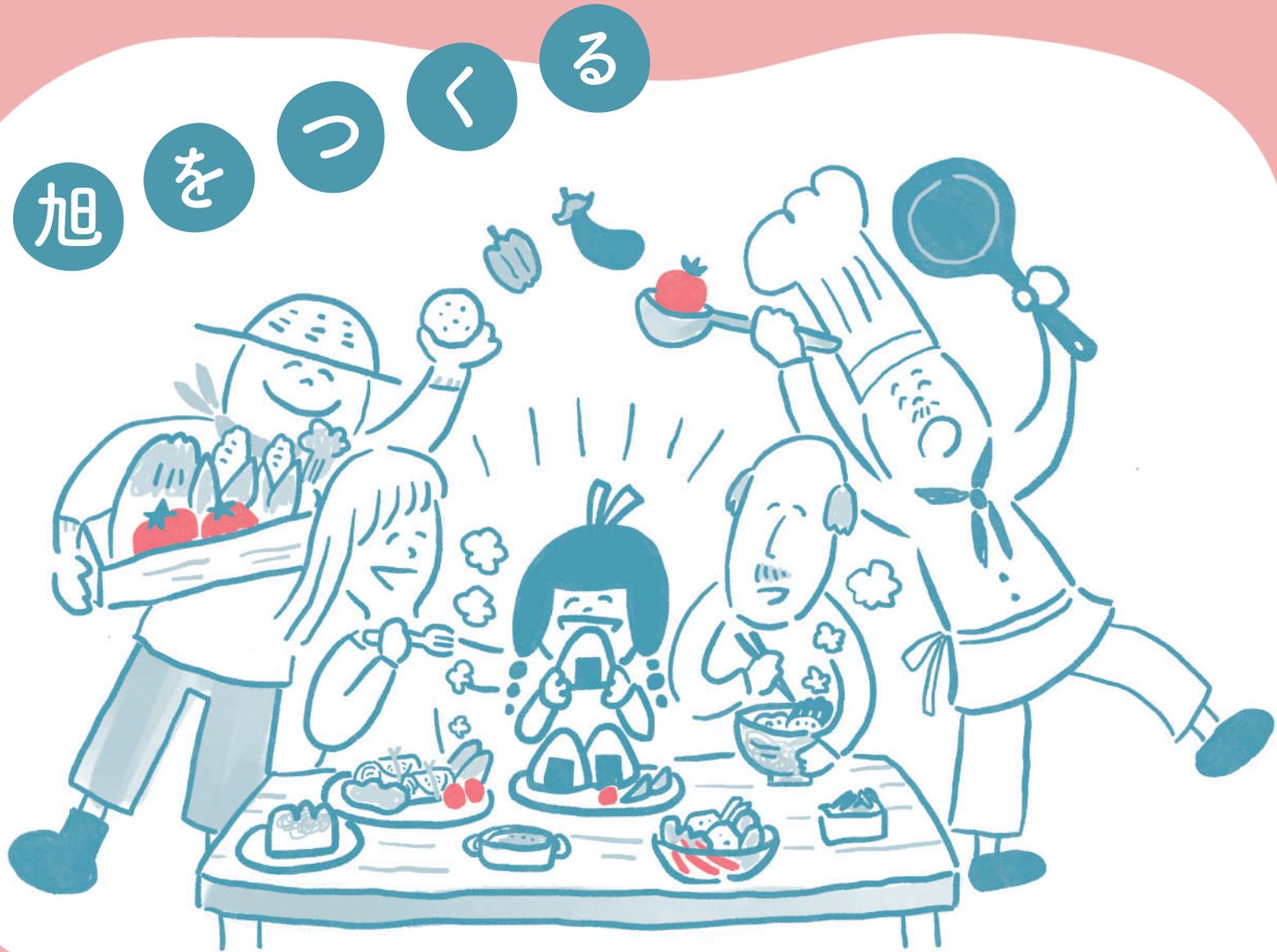


なごみの里あさひ



10の提案

旭町民や旭町に関わる約50人に聞いたお話や、提案をもとに冊子が制作されています

はじめに

農林漁業の振興、生活環境の改善、地域文化の継承など、地域ぐるみで取り組まれているむらづくりの優良事例を表彰する「豊かなむらづくり全国表彰事業」で、農事組合法人旭が令和3年度農林水産大臣賞を受賞されました。

この受賞は、多岐にわたる貢献を長年にわたり確実に実践してこられた賜物ですが、なかでも農産物直売所「なごみの里あさひ」を中心にした地域コミュニティの活性化への取り組みが高い評価を得ました。

亀岡市では、霧の芸術祭実行委員会に委託をするかたちで、これからのまちづくりを考えるモデルとして、令和元年度から「なごみの里あさひ」を中心にした旭の未来に関するヒアリングや調査、イベントなどの企画を実施してきました。（令和4年度はヒアリングで出たご意見を元にした企画として、加工スペースをお借りして、おにぎりの販売イベントを実施）

今回、約50人の旭町に住む皆さんにお話を聞き、見えてきた様々な思いやご提案をまとめた冊子を作りました。この冊子が、さまざまな年齢や考え方、立場の方が気軽に旭の未来について話し合うきっかけとなることを願っています。

ヒアリングの実施、冊子の作成にあたっては、多くの方に大切なお時間を割いていただきました。農事組合法人旭の皆さんにはヒアリング実施に多くの御協力をいただきました。小林舞さんには、これまでの研究などを元に、旭の未来を考える場に別の視点を加えていただきました。その他すべての方のお名前は記せませんが、この企画に関わっていただいた皆さんに感謝を申し上げます。

亀岡市
産業観光部農林振興課

なごみの里あさひの夢

この度は、旭町が抱える課題と夢と一緒に考える時間を共有させていただき、誠にありがとうございます。未来をみんなで考えるプロセスは、単純であるはずはないし、簡単な答えもありません。それでも、地域の未来に貢献したいという思いを寄せる人たちが、時間を割いてたくさん集まってくださいました。普段あまり話をする機会もないし、立場や声の大きさも違う人たちです。いろいろな人が関わることで生まれる新しいアイデアには、受け入れやすいものもあれば、少し受け入れにくいものもあるでしょう。しかし、共通して聞こえてきたのは、「なごみの里あさひ」を通じて地域の繋がりを強めていきたい、という思いでした。

私たちは、少子高齢化といった社会的課題だけでなく、気候変動をはじめとするさまざまな環境の変化にも柔軟に適応していかなければなりません。そのためには、たくさんの、小さく、多様な経済が必要とされています。お金を動かすだけの経済ではなく、地域にあるさまざまな資源を循環させ、未来に投資をするための経済です。「なごみの里あさひ」は、そんな小さな経済の基盤となりうる場だと思います。

この報告書にまとめられているのは、限られた時間の中で、しかし自由な話し合いから出てきた提案の一部です。すべてそのまま実現可能というわけでは、もちろんありません。それでも、これからの「なごみの里あさひ」を育てていく中で、いろいろな声や立場にある人たちが少しでも参加しやすい場になるためのきっかけになってくれれば幸いです。

2023年3月吉日

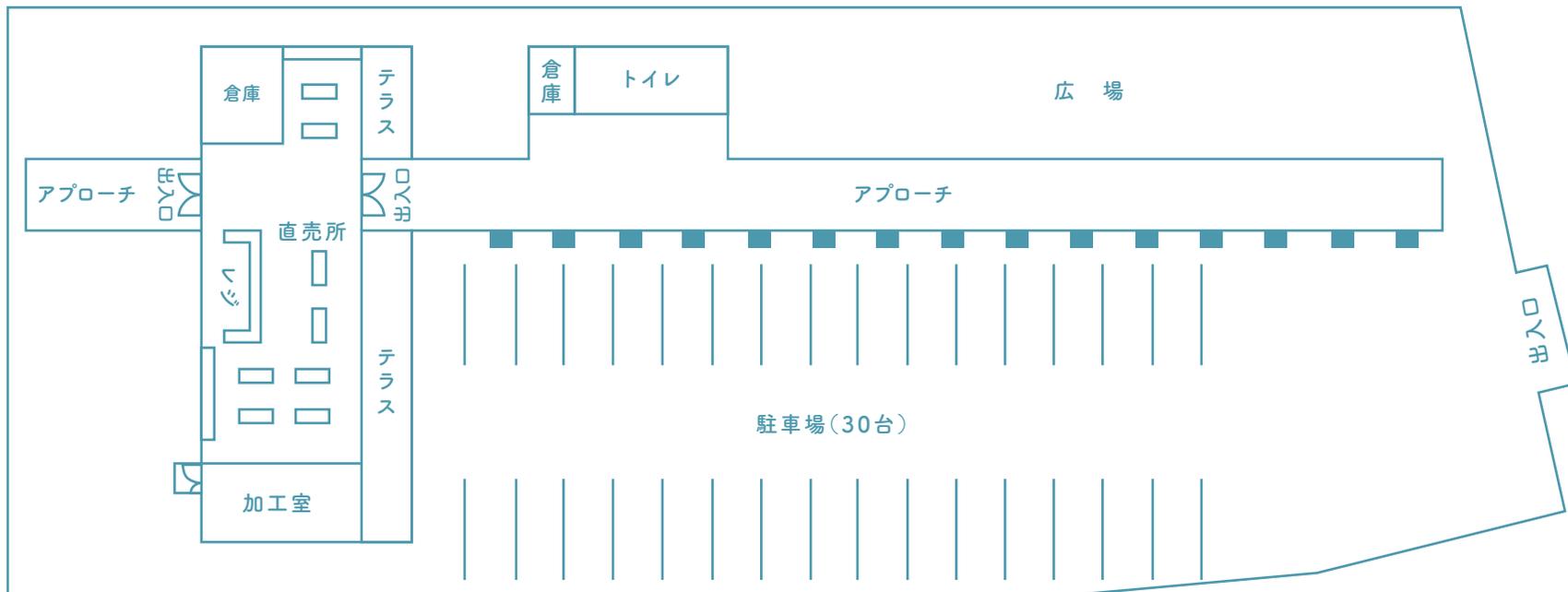
京都大学 学際融合教育研究推進センターアジア研究教育ユニット
経済学研究科 特定助教 / 一般社団法人 FEAST
小林 舞

なごみの里あさひ



平成26年6月にオープンした農産物直売所

地域住民とつくった旭町の未来マップ「夢絵巻」の実現に向けて農産物直売所の運営を行っている。地域農産物の加工や特産品の復活、雇用の創出、若手農業者の指導支援、農業者の生きがい作り、さらには地域のコミュニティの場の提供の他、旭町内で組織されている各種団体の事業に率先して協力するなど農産物を販売する場だけでなく、地域活性化のハブ的な拠点施設となっている。農家と消費者を繋ぐ場、都市との交流の場、地域住民の交流や情報発信の場として機能している。



なごみの里あさひ



営業時間 9:00-16:00

定休日 水曜・年末年始(12月31日~1月5日)

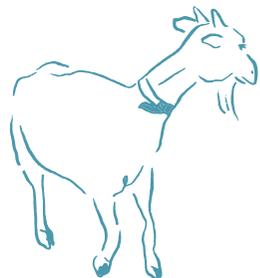
働き手 パートアルバイト(レジ 4名 / 加工 5名)

加工場からの販売

- ・毎日 手作りパン(米粉使用)
- ・木 しろもち・あんもち・おはぎ・舞茸ご飯
- ・金 いなり寿司・編み笠だんご(季節限定 3月~6月ごろ)
- ・土 ちらし寿司
- ・日 しろもち・あんもち・おはぎ・山菜おこわ
- ・土日 いちご大福(季節限定2~5月ごろ)など

イベント

- ・第4日曜日 特別感謝デー
- ・6月 創業祭
- ・11月 収穫祭



組織体制 / 構成員の状況

運営/経営: 農事組合法人旭 (平成20年4月設立)

旭町内の農業者が連携して立ち上げた組織。

地域内の水田農業の維持・発展に貢献することを基本方針として、法人として農地を借り受けて農業経営を行う。また、耕作放棄地をなくすため新規就農者に畑を貸し出すなど対策を行う。

組合員:153名 役員理事:7名 幹事:1名

職員:2名 オペレーター:18名

法人内には総務部、生産営農部、施設機械部、販売加工部、生産出荷促進部の5部会が設置されており、なごみの里あさひは販売加工部、生産出荷促進部が担当している。

旭町

総人口 677人

4集落(美濃田、杉、山階、印地)

総世帯数 308世帯

農家数 93(内専業24)



令和5年 2月1日現在

住民からの

提案

1

販売する農産物を川東地区全体に広げる



今は旭町を中心とした農家さんの野菜販売がほとんどですが、
高齢化や気候変動などで、野菜を常にお店に並べておくのが大変です。
旭でこれから活躍する若手農家さんや、旭に限らず川東地域の農家さんの野菜がたくさん並んでもいいのではないのでしょうか。
まずはお隣、馬路町から？南丹市八木町？もっといろんな農家さんや作り手のものを並べて、
お客さんや農家さん、旭の人たちがいろんな人と交流できる場所になったらいいな。

加工場のレンタル / 新たな加工品づくり



「こんなもの作りたい!」「あんなもの販売してみたい」という地域の人たちが気軽に使える加工場やキッチンスペースがあったらいいな。

料理教室なんかも開けるかも。新たな交流が生まれて、新しい加工品が生まれて、直売所の魅力がアップ。

野菜も今よりもっとたくさんのおなかにお届けに行ったらいいな。

売れ残った野菜の活用にもいいね。売れ残った野菜をまた農家さんが取りに来るのは一苦勞。廃棄するのも嫌だよな。

時期によって野菜が取れすぎることもある。それが加工品やお土産になったらとっても嬉しいな。

農家のいるもの / いないものをつなぐ掲示板を



旭は若手農家さんがたくさん就農に来ている地域。そんな若手農家さんは資材や道具、農具、機械を買うのも一苦労。

もし地元でいらなくなったもので、使えるものがあれば欲しいな。ゴミを捨てるのだって大変です。

若手農家さんや、農のある生活をしたい若手が、農業をはじめやすい環境は貴重です。

ものだけでなく、情報を交換することで、大変な時に「助けて!」と言える関係づくり。

そんな情報交換の場、掲示板や、Lineグループ、交流の機会がくれたらいいな。

直売所が誰かの「いる」「いない」をつなぐ場所として「助けて」「助ける」が気軽に言えるコミュニティーとしてますます協力しあえる場所になっていくと素敵だな。

田んぼが見えるデッキをつくる



直売所からみる山の風景や田んぼの開けた風景は、亀岡の他の直売所ではなかなか味わえない贅沢な景色です。

ふと見上げるとパラグライダーだって飛んでいるし、あっちの方にはコウノトリが見える。

せっかくなんだから、空いたスペースに旭が見渡せるデッキを作ったらいいんじゃない？

休憩スポットとしても、いろんな人が立ち寄って旭地域のことをもっと好きになってくれるんじゃないかな。

住民からの

提案

5

定期的に農産物や加工品を送る 宅配便BOXをつくる



旭や、川東の新鮮な野菜や特産品、お土産をまとめてどうぞ。

なごみの里のファンや、会員さん、個人のお家に定期的に送ることができたら欲しい人はいるんじゃないかな。

故郷を離れた人や、旭を応援してくれる人に美味しいものを届ける。

お店に行きたいけど行けない人の声も聞く。

なごみの里あさひや、旭と関わる人がサポーターとして、いろんな所が増えたらもっと嬉しいよね。

販売手数料を考える



もっと若手や新しく参加したい人がチャレンジしやすい直売所を目指して。

そして、いろんな野菜が手軽に買える直売所を目指して。

今だけでなく、未来を担ういろいろな農家がより関わりやすくなるように、販売手数料の幅が作れたらいいな。

新規就農者を応援する仕組みをつくる!? 直売所で応援したいものは特例をつくる!?

いろんな規模や農法で生産している人が集うことで、直売所がもっと活性化されるはず。

中や外で飲食をできるようにする

(中のカフェスペースの見直し? /外にトレーラーカフェ?)



今あるカフェスペースは、地域の人やお客さんがゆっくりお喋りできて、とても良い雰囲気。

だけど、少し狭いから、もっと広く感じる空間があると良いな。

例えば窓があったらカウントリを見ながらコーヒーが飲めるんじゃないかな？
気持ちいい空間ってなんだろう？と考えているとお客さんが集まって来るはず。

中が狭かったら外でゆっくりできる場所があればいいな。

トレーラーを置いて、そこでゆっくりしてもらおう。なんてのもいいな。

屋根の上など、少し高いところからの見晴らしも素晴らしい旭の売りになるはず。

子どもが遊べる / 学べる場所をつくる

(バスケのゴール / 塾など)



子どもが遊べる場所、塾や、お稽古できる場所が少ない。送り迎えしながら遠くまで行くのは大変だ。
地域に開かれた場所があって、子どもが遊べたり、直売所が休みの時など習い事ができる空間になっていたり。

未来の子どものことを考えた場所をつくれたらいいな。

学校単位ではできない横断的な支援として、地域の先人の知恵がここで生かされるかもしれない。

地域で子育てをしながら、見守りながら、応援しながら、多世代の接点が生まれる場は重要だ。

農家が直接対面で販売するイベントを 定期的で開催する

(昔やっていた市場のように)



野菜を買いに来た人と農家さん同士が、コミュニケーションできる機会、

お互いの顔を見ながら販売できる日があると嬉しいな。

やっぱり「美味しい!」と言ってもらったり、「こんな野菜が欲しい」と意見をもらったり、

お客さんの顔を見てやりとりをしたい。生きがいにもなるし、交流にもなる。

最近どうしているかなど、来てくれた人とも話をしたいのです。

そんな場や市場をたまに設けられたらいいな。

農家レストランをつくる



このあたりには飲食店がありません。

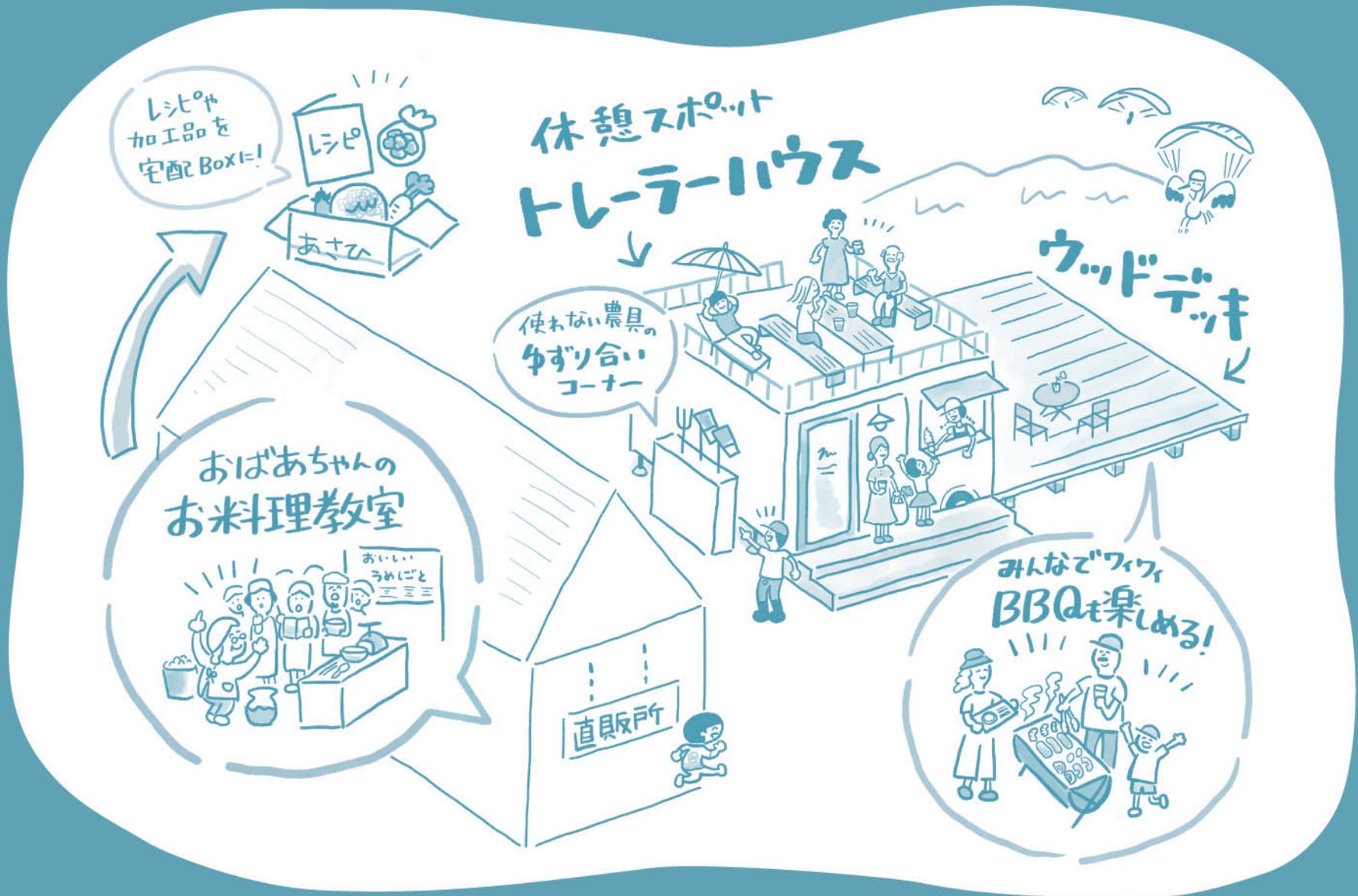
近くに気軽にご飯を食べられる、地元の野菜を食べてもらえる農家レストランがあればとってもうれしいな。

外からくるお客さんだけでなく、農家さんや地域の人がお昼ご飯に利用できても嬉しい。

気軽にいろんな人が来て、旭の美味しい野菜やお米、お餅を食べていってくれる。

そして交流が生まれる。お土産に野菜や加工品なんかも旅立っていくことでしょう。

提案を組み合わせたら、可能性もいろいろ広がるかも。



話し合ったら、こんな案が描かれました。

《日本全国の参考事例》

提案② 加工場の参考

そののわの台所
「katte」



そののわの台所
「katte」記事



シェアキッチンみたいな
加工場「さとたく」



提案③ 交換循環の参考

くるくるショップ



提案④ デッキの参考

市民でつくろう!
朝霞基地跡地公園



自然とつながる
ウッドデッキ



提案⑤ 宅配便の参考

特産品
詰め合わせ



食べる通信



提案⑦ トレーラーハウスの参考

Cafe Juno



提案⑧ 遊び場の参考

道の駅 つる



子どもの居場所
〇〇



提案⑩ 食堂の参考

直売所と食堂



BBQガーデン



野菜直売所
風の村



この冊子の一番大事なメッセージは、こどもや新しい住民たちなど、地域に関わる色々な人たちの声を聞くことによって、今までとはちょっと視点の違う“新しいけど旭町らしい”面白いアイデアが生まれてくるだろう、ということです。こどもたちに聞いた面白いアイデアをたくさんくれるかもしれない。パソコンで情報を調べることが得意な方がいるかもしれない。それぞれが違った能力や、ネットワークを持っています。旭に関わるそれぞれみなさんに大切な役目があるはず。この冊子を通して、旭町の未来、直売所の未来を楽しく話し合う場をつくっていきましょう。

※ 事例は各地で行われている活動のほんの一部です。

旭をつくる
なごみの里あさひ10の提案

2023年3月1日発行

発行 亀岡市 農林振興課 / かめおか霧の芸術祭実行委員会
〒621-8501 京都府亀岡市安町野々神8

協力 農事組合法人旭 / 旭町民 / 旭就農者 / 旭町自治会

冊子制作

ディレクター 辰巳 雄基(かめおか霧の芸術祭)

編集 文 荒美 大作(亀岡市農林振興課)

小林 舞

イラスト 小岩 蛍

デザイン 野田 菜奈美